３月　「自殺対策強化月間」・・・厚生労働省は、様々な悩みや問題を抱えた人々に届く「当事者本位」の施策：「いのちを守る自殺対策緊急プラン」（H 22.2.5)を展開します。

十島村教育委員会だより　平成 31 年２月号

さわやかトカラ情報

南北１６０㎞
「心をつなぎ　気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会
〒 892-0822 鹿児島市泉町 13 番 13 号
TEL　099-227-9771

２月・・・「喜界馬」（トカラ馬）

十島村教育長　有　村　孝　一

幻の「喜界馬」里帰り
約30年ぶり復活に一歩
十島からトカラウマ移入
観光や教育に活用 喜界町

南海日日新聞（平成 31 年 1 月 25 日付け）に喜界馬「お帰り！」。南日本新聞（平成 31 年 1 月 26 日付け）に幻の「喜界馬」里帰り。という見出しで大きく報道されました。

平成 28 年に喜界町の川島町長より「喜界町では、優秀な農耕馬・軍馬であった【喜界馬】を【トカラ馬】を移入・繁殖させることで復活させ、観光振興や小中学生の教育に活用したいので十島村に協力いただきたい」というご要望を頂きました。村は、このことは鹿児島大学の提案する保護活用の方向性にも合致しているということで承諾いたしました。

そして、昨年 12 月下旬に中之島から喜界島にメス１頭を移送いたしましたが、喜界島から宝島に渡った 10 数頭の馬が、起源ということです。1897 年（明治 30 年）頃ということですので、約 120 年ぶりの里帰りということになります。

その喜界馬（トカラ馬）の歓迎セレモニーが、1 月 24 日に喜界島のグローリーファームであったのです。トカラ馬のルーツが喜界馬ということで、記事の見出しは、里帰りということになったわけです。

トカラ馬は、1952 年（昭和 27 年）鹿児島大学の林田教授が十島村宝島に小型の在来馬が飼われていることを確認し、「トカラ馬」と名付けました。確認された当時、宝島では 43 頭が飼育されていました。その後、翌昭和 28 年 9 月 7 日に鹿児島県の天然記念物に指定されています。

性質は温厚で、粗食に耐え、耐暑性に富み、頑健で、農耕用や駄載用、サトウキビの搾汁に利用され、1943 年（昭和 18 年）頃には総頭数 100 頭に達したとされています。しかし、機械化などによって農耕などに使用されることが少なくなったことなどから 1960 年代（昭和 35 年）にかけて次第に減少し、宝島では繁殖集団の維持が困難となったことから、数頭を残して県本土の開聞山麓自然公園と鹿児島大学入来牧場に移され、保護・繁殖が図られました。昭和 52 年には、中之島の村営牧場に移されます。そこで平川動物公園、開聞山麓自然公園から再移入されたトカラ馬との間で繁殖が行われ、平成 5 年には 27 頭を数えるまでになります。

「トカラ馬はこれまで頭数が減少しても他馬種との交流が全く行われず、極めて小さな閉鎖集団として維持されており、日本在来馬の中でも最も純粋な種であると言われています。それゆえに学術的価値が極めて高く、貴重な遺伝子資源として保存しておかなければならない」と 2006 年（平成 18 年）に鹿児島大学が報告しています。また、「今後、保存していくためには単に繁殖を図るだけではなく、その生物学的特性を把握すると共に、馴致を行い実用的利用を行うことが重要であると思われる。」とも報告されています。

現在トカラ馬は、中之島に 21 頭、宝島に１頭が飼育されています。この貴重な天然記念物であるトカラ馬を、村の宝として大切に守っていきたいと思います。

シリーズ――新聞に投稿１「若い目」
（１月３１日掲載）宝島中学校２年　平田　一華

立志の日を迎えて

私は今日、立志の日を迎えました。私は今まで、たくさんの人たちに見守られ、支えられてきました。今までお世話になった方々、ありがとうございました。これから、私が立てた三つの志を伝えたいと思います。

まず「自覚」についてです。私は来年高校生になり、住み慣れたこの宝島を離れて生活します。そのための準備として、日頃から自分で考え判断し、その結果を受け止めるようにしていきます。

次に「健康」についてです。私は中学２年生になってから、体調を崩して学校を休んだことがありません。体力がついてきたことや、忙しい中でも自分なりにペース配分を考えて生活することができているからだと思います。このような健康な生活を土台として、前向きな人生を歩んでいきたいです。

三つ目は「立志」です。今、高校について調べ学習をしています。各学校の特色や進路先などたくさんのことを学んでいます。あわてず、落ち着いて、自分の将来を思い描き最善の選択をしたいです。

これから、たくさんの経験を積みながら立派な大人になって、いつかはこの美しい宝島に帰ってきたいと思います

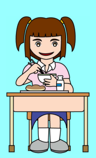
皆さん、これからもよろしくお願いします。

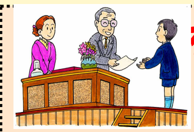
南日本新聞「子供の歌（１月１７日　掲載）」

大きくなあれ

中之島小２年　久木山　陽

ごはんをもぐもぐ
おなかに入れ
もぐもぐごくり
もぐもぐごくり
どんどんどんどん
大きくなあれ
ミルクをごくごく
おなかに入れ
ごくごくごっくん
ごくごくごくり
どんどんどんどん
大きくなあれ





祝卒業！

口之島 3/12　中之島 3/9　平島 3/12
悪石島 3/11　小宝島 3/11 宝島 3/11

シリーズ―― 新聞に投稿２「若い目」
（１２月７日掲載）諏訪之瀬島小学校5年　濱田一馬

忠孝仁愛教化の道

西郷隆盛は、禁門の変で長州軍と戦ったり、ぼしん戦争で新政府軍の指揮をとったりした明治維新を代表する人物です。でも、戦争ばかりしていたのではなく、廃藩置県などの難事業を達成した人です。

西郷が残した言葉に「忠孝仁愛教化の道は政事の大本」というのがあります。これは、西郷がどんなことを考えて明治維新を行ったかが分かる言葉です。意味は「世の中を治める大前提は、親や目上の者への尊敬の念、他人に対する愛情、教育の３点であり、これは西洋でも変わらない」ということです。この考えは、今の政治にも当てはまるのではないかと思いました。

ぼくは、世の中を治めるわけではないです。でも、あいさつをしっかりしたり、友達に優しくしたり、勉強を頑張ったりするなど、この考えをふだんの生活に生かしたいと思います。

平成 31 年春季全国火災予防週間！
（３／１～３／７）
「忘れてない？サイフにスマホに火の確認」

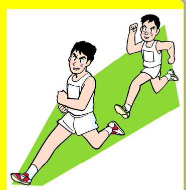
鹿児島県学校給食会表彰！
おめでとうございます！

匠富子さん（小宝島小中学校）が、２５年間、学校給食の充実・発展に寄与され、県学校給食会から表彰されました。これからも、子どもたちのために、よろしくお願いいたします。

文部科学大臣表彰！
おめでとうございます！

大村ひさ子栄養教諭（口之島小中学校）が、これまでの活躍が認められ、表彰されました。これからも、おいしくて栄養のある楽しい給食の提供をお願いします。

片野田隆紀　先生
日置·大隅·最終区間を駆ける！



悪石島小・中学校の片野田先生が指宿地区の代表として県下一周駅伝に出場されました。２日目第２区と４日目第４区、最終日のアンカーとして計３回、走った距離は 26.5km とのこと。

先生は、日頃から悪石島の島内でも練習を続けていらっしゃいます。各地区の代表として選ばれるには、選手枠に入るための自己記録や体調の維持が大切です。今年で 15 回目とのこと、すごい事です。片野田先生のすばらしい走りに感激しました。

シリーズ―― 十島村で学ぶ
宝島にいてくれてありがとう
宝島中学校２年　平田　一華

「宝島に生まれてきてくれてありがとう。そして、宝島にいてくれてありがとう。」

これは、私が所属している新聞部で、地域の方にインタビューしたときに、その方が児童・生徒に向けておっしゃった言葉です。その言葉が、私の心にとても印象に残りました。

インタビューでは、昔の宝島について聞きました。そこで私は、昔は宝島小・中学校に１２０人以上の児童・生徒がいたことを知りました。今よりもはるかに多い人数です。私は、うらやましく思いました。しかし、地域の方の言葉を振り返ると、子どもが少なくなっているからこそ、一人一人が大切にされているのだと思い、温かさを感じました。

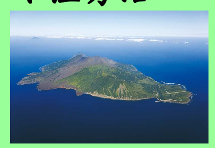
これから私は、さまざまな経験をしていき、いつか宝島に帰ってきたいと思っています。

そして、「宝島にいてくれてありがとう。」と言われるように宝島に貢献したいと思います。

「体力アップ！チャレンジかごしま」年間ランキング

○第１学年　種目「長縄」　第３位　宝島小学校
○第２学年　種目「一輪車」第６位　中之島小学校
○第３学年　種目「馬跳び」第２位　悪石島小学校
　種目「２人でさっさっ」第１位悪石島小
○第５学年　種目「短縄飛び」第６位　悪石島小学校
　種目「一輪車」第７位　悪石島小学校
　種目「馬跳び」第１位　悪石島小学校
　種目「２人でさっさっ」第１位悪石島小
○第６学年　種目「短縄跳び」　第２位悪石島小
　種目「馬跳び」　第３位　悪石島小学校
　種目「２人でさっさっ」第４位悪石島小

【諏訪之瀬島小・中学校からのメッセージ】
「初心を忘れず」
教頭　下窪秀治



11 ヶ月前、諏訪之瀬島小・中学校に赴任した日、児童生徒・保護者、多くの島民の方々に出迎えていただきました。

保護者・里親や地域の方々は、とても協力的で、体育大会や文化祭などの行事に出席し、児童生徒の成長を温かく見守り、励ましてくださいます。

また、「魚いるね」「野菜持っていくね」など、日頃より本校職員やその家族にも声をかけていただき、とてもありがたく思うことです。私自身も、遠足でのクルージング、タケノコ採りや魚釣り、車や草刈り機のメンテナンス方法、通船時のコミュニケーション、ヤギの世話、作地温泉での入浴、御岳登山など、諏訪之瀬島ならではのいろいろな体験がとても新鮮で、島民の方々に教えていただくことばかりです。

赴任してからの様々な体験を通して、諏訪之瀬島の自然や人々に学び生かされて、私たちの教育活動は行われていることをしみじみと感じています。
これからも、初心を忘れることなく、諏訪之瀬島での学びを大切にしたいと思います。

『教職員仲間であるあなた』へ
私からのメッセージ】

学校とは、勉強するところ・切磋琢磨するところ・自己調整能力を育むところと 30 代の頃教わりました。７島で共にがんばりましょう。